



染付花鳥図芙蓉手平鉢 若杉窯

春の優品選 —花鳥の美— (前期)

前田育徳会尊經閣文庫分館・第2展示室

- 第70回記念 現代美術展
- 企画展topics「革新の視座」
- 平成26年度の展覧会
- 平成25年度のコレクション展を振り返って
- 講演会記録「名作の森」当館館長
- ミュージアムレポート
- バスツアー予告
- 4月の行事予定

春の優品選

—花鳥の美—

3月27日(木)～4月15日(火) 会期中無休

春の優品選(前期)

—花鳥の美—

3月27日(木)～4月15日(火) 会期中無休

今年の金沢はとても降雪の少ない冬でしたが、これも近年の異常気象の一連の現象といえるものと思われまます。しかしながら、雪は少なくとも寒さは例年よりも厳しく、春の訪れには、より一層の喜びがあります。

今回の特集展示は、絵画や漆芸・金工・染織などの工芸品に描かれた華やかな花鳥の美を紹介します。百花のさきがけといわれる「梅」、日本の春を象徴する「桜」、花の王者「牡丹」、さらには種々の花文にあわせ、中国の伝説上の霊鳥である「鳳凰」、長寿を象徴する吉祥の鳥の「鶴」をはじめとする様々な鳥類の世界を紹介します。「花」の輝きは、自然の生命力であり、またそのは

かなさを象徴しています。自然と共生してきた日本人は、そうした自然の移ろいに人生観を投影しているといえましよう。

展示作品は約三十点になりますが、主な作品は、「林和靖・花鳥図」(山本梅逸筆)、「越中愛本橋図」(佐々木泉玄筆)、「鷹狩図(絵巻)」(六代梅田九栄筆)、「鳥画帖」(黒塗村梨子地桜寿帯鳥文蒔絵・鞍・鏡)、「堆黒鳳凰文軸盆」(蝶蒔絵面箱)、「牡丹唐草文銀象嵌鏡」(一重蔓牡丹唐草文様金襴)、「雲鶴文様綾織(御朱印裂)」などです。なお、染織作品は前期・後期で展示替えを行います。

兼六園のお花見にあわせて、お立ち寄りください。

春の訪れにあわせ、古美術展示室では「春の優品選」をお届けします。

わが国は四季折々の変化に富んでおり、その季節に応じて数多くの「花」が咲きます。それは私たちの目を楽しませてくれるばかりでなく、時には心を癒してくれることもあります。各地から桜のたよりが届くようになりました。今年の桜はいつになるのか、日本人の心を捉えてやまない桜。その開花を春の訪れと感じる人が多いといわれます。

自然とともに暮らし、自然との深い関わりの中で文化はぐくんできた日本人には、和歌にみられるように自然に心情を重ねて表現すると

いう伝統があります。絵画や工芸品にもそうした傾向が見られ、花や鳥、自然を表現する作品が好まれて制作されてきました。

花と鳥を描く花鳥画は、自然を室内において身近に感じることでできる最も一般的なテーマとして広く見られてきました。四季の変化を花や鳥に託すことで、日々の生活に彩りを添えるものとしてもはやされました。今回は花と鳥をテーマとした作品を紹介します。

世の中には桜と同様、身近にたくさん美しいものがあります。お花見を兼ねて美術館へもお立ち寄りいただき、絵画や工芸の作品を通して春の息吹を感じていただければ幸いです。



「時絵草花丸文花見弁当」山本春正

「紫地牡丹折枝に蝶模様長絹」

新紀元 革新の視座

加賀谷武、木下晋、久世建二、庄田雷寛、蓮田修吾郎の創造

4月20日(日)～5月18日(日) 会期中無休

金沢駅西口に建つ巨大モニュメント「悠颺」は本展の作家の一人、金属造型の先駆者蓮田修吾郎の作品です。蓮田の創作の歩みは、工芸が絵画や彫刻と同じく、用を離れた純粹美術として成り立つことを実証し、金属造型の世界を確立するものでありました。今回の展示では県立工業学校時代の日本画から、シャープな線と美しい金属の肌を見せる方壺作品とその原型、そして建築空間の中における白銅浮彫のレリーフ、環境造形としてのモニュメントの雛形(マケット)をご覧ください。



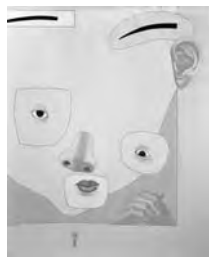
蓮田修吾郎
白銅浮彫「豊穡なるライン」1983年

空間造形の加賀谷武は金沢美大金工科で蓮田の師・高村豊周の薫陶を受け、彫金から前衛的な金属作品や平面作品を手掛けるようになります。以後フレームのみの作品や、室内や屋外で丸太を木枠で囲むなど、前衛作品を発表し続けました。近年はロープによるインスタレーションを国内外で行っています。小矢部の高さ118mのクロスランドタワーから近くの劇場までをロープで繋ぎ、空間を新たな造形作品として見せた展示は圧巻で、今回は、本多の森公園と美術館ロビーにおいてロープインスタレーションを行います。



加賀谷武
「碑」1965年

庄田雷寛(常章)はカラフルな色面と思考の軌跡を示すような線が複雑にからみあう平面構成で、現代の世相と現代人の深層をコミカルに描きます。鳥獣戯画や信貴山縁起絵巻、浮世絵、現代の漫画など、日本に脈々と続くひょうげた線画の世界に連なるものと言えます。近年、コミカルな線と平面的な彩色による作品が、クールジャパンなどと評価されていますが、庄田の仕事はその先駆をなすものです。



庄田雷寛
「福笑いろ」1976年

第七十回記念 現代美術展

3月29日(土)～4月15日(火) 会期中無休

昭和二十年十月に第一回展を開催して以来、毎年行われています。現代美術展は、今年七十回を迎えます。本展では所属会派を超えて、日本画、洋画、彫刻、工芸、写真の六部門から、文化勲章受賞者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめとする財団法人石川県美術文化協会役員・会員の秀作に加え、一般公募からの入賞・入選の意欲作が一堂に展示されます。

◇部門

- ・洋画(第7・8・9展示室)
- ・工芸(第3・5・6展示室)
- ・写真(第4展示室)

※金沢21世紀美術館では日本画・彫刻・書が展示されます。

◇入場料(金沢21世紀美術館と共用)

	一般	高校・大学生	小中学生
当日	一、〇〇〇円	六〇〇円	五〇〇円
前売り	九〇〇円	五〇〇円	四〇〇円
団体	八〇〇円	四〇〇円	三〇〇円

※当館友の会会員は、会員証提示により団体料金

◇作品解説 会期中、作品解説を行います。

◇開館時間

午前九時三十分～午後六時
毎週金曜・土曜日は午後八時まで開館

平成26年度

当館の展覧会をお楽しみください

平成二十六年度は四つの企画展を計画しています。

春は「新紀元―革新の視座―」と題して、既成概念を打ち破り、新たな表現世界を求めて創作してきた石川ゆかりの五人の作家を紹介いたします。空間造形の加賀谷武、鉛筆画の木下晋、陶による造形に挑む久世建二、カラフルな線と色面で現代の大首絵を描く庄田雷寛、金属造形の先駆者で文化勲章受章者の蓮田修吾郎の五作家による、絵画・造形作品を通じて石川美術の重層性を提示するものです。確かな技術に裏付けされた各作家の創作の軌跡をご覧いただきます。

秋は、「工芸王国の実力魅惑の一二〇選」を行います。藩政時代より伝統技術が受け継がれてきた石川の工芸は、陶芸・漆芸・染織・金工・木竹工などあらゆるジャンルにわたって高い水準を持つ内容となっています。そうした工芸品の収集を進めてきた当館の所蔵品を中心に、ご寄託いただいている作品を加えて一二〇点を厳選し、明治期から現代にいたる



作品左上より
庄田雷寛「ざる男」
加賀谷武「空間生態・ウィーン3」
木下晋「102年の闘争」
右上より
蓮田修吾郎 白銅浮彫「聖歌の碑」
久世建二「痕跡」

作品群を紹介するものです。なかでも松田権六の畢生の大作「蓬萊之棚」を特設台に展示し、四方からの鑑賞に加え、制作の由来を物語る底面の銘文をもご覧いただきます。まさに、「蓬萊之棚」のすべてをご覧いただく絶好の機会といえましょう。工芸作品の精華によって、あらためて工芸王国いしかわの実力を感じ取ることができるよう。

新春一月には「没後四〇〇年記念 高山右近とその時代」を開催します。信長、秀吉に仕えた高山右近は、武将としての傑出した能力を高く評価されました。また、千利休の高弟として茶人としても活躍し、同時にキリスト教布教にも尽力しました。しかしキリシタン禁令により棄教を迫られ、拒否したことから領地を召し上げられます。右近の才を惜しむ加賀藩祖・前田利家により金沢に迎えられ、利家の死後は二代藩主・利長により家老扱いを受け、金沢城修築、高岡城修築などに手腕を發揮しました。明年二月が四〇〇年の節目に当たることから、右近の生涯と人物像を、右近が生き



前大峰「松図屏風」昭和42年

た時代背景から再認識することを趣旨として開催するものです。

三月には、北陸新幹線開業記念「色絵磁器の名陶 九谷焼」を行います。北陸新幹線の開業で石川へお越しいただく方々に、石川を代表する九谷焼を紹介するものです。古九谷にはじまり、江戸・明治・大正・昭和を経て現代にいたる九谷焼の流れをご覧いただきます。



伝 高山右近所用のチョッキ
カトリック大阪大司教区蔵

特別陳列は、前田育徳会尊經閣文庫分館で「尊經閣文庫名品展―国宝 類聚 国史―」と「加賀藩の美術工芸」を、第2展示室では「北陸ゆかりの画聖たち―長谷川等伯・久蔵・左近、久隅守景―」を開催します。近現代美術では、「いのちの花―稲元實展―(日本画)」、工芸では「Motion & Still 塑造人形の美―紺谷力・井口十糸・山本榮子―」を予定しています。

こうした展覧会に加え、当館が主催に加わる北陸中日新聞主催「華麗なる英国美術の殿堂 ロイヤル・アカデミー展」をはじめ二十三の企画展が予定されています。

平成25年度の

コレクション展示室を 振り返って

コレクション展示室では、月ごとにテーマを設けて所蔵品や寄託品を公開したほか、特別陳列や特集展示を行いました。

前田育徳会尊經閣文庫分館では、特別陳列として七月に「尊經閣文庫名品展―国宝 水左記を中心に―」を開催しました。水左記を中心とした「水左記」のほか、公家や武家の日記など古記録を紹介しました。筆者俊房は能書家としても著名で、その筆跡を今に伝える「水左記」は貴重な作品として好評でした。十月には「加賀藩の美術工芸」を行いました。加賀藩では三代から五代藩主の時代に、名品の収集とあわせて美術工芸を育成する総合的な文化政策を推進しました。その象徴ともいえる「百工比照」をはじめ、優れた文物や美術工芸品を展示しました。第二展示室では春の「国宝 薬師寺展」で「吉祥天女像」の専用展示室として使用したほか「長谷川等伯と久隅守景」をはじめとする七つの特集を行いました。

近現代美術では、十月から十一月にかけて「能島芳史展―十五世紀フランドル絵画から

の展開―」(第四展示室)、二月から三月にかけて「生誕一〇〇年 截金 人間国宝・西出大三―平安の美を求めて―」(第五展示室)という二つの特別陳列を開催しました。

能島氏は金沢美術工芸大学を卒業後、王立ゲント美術大学でフランドル技法を学んだ洋画家で、白垂地と透明画法による幻想的な作品を描いてきました。展示室の壁面を黒い布で覆い、黒い展示室の中で、漆黒の中に浮かび上がるように作品を展示しましたが、その展示効果に皆さん驚かれたようでした。一方、截金の重要無形文化財保持者として知られる西出大三氏の特別陳列は、生誕百年を記念するものでした。東京美術学校時代の木彫にはじまり、平安の美を復興した截金作品に、関係資料や制作の道具などを交えて、西出氏の創作活動を回顧する展示で、冬季にもかかわらず多くの来場者を迎えた展観でした。

近現代美術では、工芸・純粋美術あわせて二十三の特集を開催しました。第三展示室では、伊東深水・小糸源太郎に師事し、晩年は珠洲市

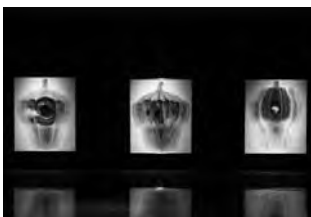
に活動拠点を置いて制作した「最後の絵師勝田深水」の小特集が注目を集めました。また「祈り」をテーマに日本画・洋画・彫刻を展示した「祈りの造形」がジャンルを超えた展示となりました。二月には第四展示室で「ムナカタとオモテ」を開催しました。板画と呼ばれる木版画で世界にその足跡を残した棟方志功と、玄土社を主宰し古典書の臨模と研究で知られる前衛書家表立雲の二人を紹介するものでした。第五展示室では、「人間国宝のわざ」と題して当館が所蔵する人間国宝の作品を紹介しました。

夏休み親子で楽しむ美術館は「みる・きく・かたる」というテーマでした。作品をよく見て登場人物の声に耳を傾け、さらにその登場人物に語りかけてみようという内容でした。

このように展示作品を入れ替えながらご覧いただいているコレクション展示室は、毎月第一月曜日が無料です。是非とも足をお運びください。



薬師寺展 第2展示室
(吉祥天女像 展示室)



能島芳史展



西出大三展

「石川県立美術館 名作の森」

講師：当館館長 嶋崎 丞

開催日：1月19日(日) 当館ホール



当館コレクションを収集してきたプロセスにおける思い出やこぼれ話など普段は聞けない話を中心に、約二時間に渡り話がありました。当館の文責で抜粋、要約し掲載します。

昭和三十四年十月に旧館がオープンした際、美術館運営委員会を持ち、これからの美術館づくりを検討しました。そこででた方針は「加賀藩以来の素晴らしい伝統文化を活かし、郷土色豊かな美術館を作るべき」というものでした。

昭和五十六年にこの美術館が建ったとき一、三二〇件だったコレクションが現在で三、二二〇件になり二千件ほど増えたこととなります。寄託品をあわせると五、〇〇〇件近いコレクションになります。

今回の展覧会では初めて人気投票という形を取り入れましたが、第一位は国宝の「絵巻香炉」でした。昭和三十三年に天皇陛下が石川県に行幸になるときに何をご覧いただくかが検討され、前回は、今日という人間国宝の実技をご覧いただきたいので「今度は優れた古美術品を」ということになり、山川家の色絵巻香炉をご覧いただくことにな

りました。

これを非常に大事にしていた山川さんは、戦時中は蔵の中に地下室を作って中に納め、自分もこれと心をしようと決めていたそうです。当時は山川家を訪ねた人でも、巻香炉を見た人は僅か数人。天皇陛下がご覧になるのなら、ということでも公開する運びとなり巻香炉が初めて世に顔を出したのです。その折りに両陛下から「この巻香炉は個人の宝であると同時に日本の宝でもある」という言葉があったと伝え聞き、大変感激した山川さんは、これを寄附する決意をしたということですから。そしてこの寄附が美術館を作ろうという機縁になり旧の美術館が建てられたのです。旧館時代から色絵巻香炉だけの一室展示でした。現在の美術館になってもそれを受け継ぎ、一室展示をしているわけです。

巻の巻香炉ですが、旧館の開館記念展の時に私が所有者の水野富士子さんという方の所へ借りに伺い、巻巻一緒の展示をしました。これを平成三年に寄附して頂くとき、実はある美術館から大変な高額でこの巻香炉を買おうとする動きがありました。しかし水野さんは旧館の開館記念展の展示のように「巻と巻とを一緒にしたい」との思いを強く持つておられ、「巻巻一緒の展示」を約束し、石川県に寄附して頂くことになったのです。

二位は松田権六さんの「蓬萊之棚」でした。来年の新幹線開業に向けて四方から鑑賞で

きる特別ケースをあつらえて展示することを考えています。

昭和天皇がご覧になられた際、(吉祥文の松竹梅のうち)「竹が見えないが」とお聞きになられ、「鶴を描いた下地が網代になっており、実は竹は隠れております」と答えました。(鶴亀のうち)「亀がない」と聞かれて、「亀はこの水の中に隠れています」とお答えしたそうです。

所有者の方は、青山にお住まいで、平屋建ての縁の隅にこれを置いてあった。なぜこんな所においてあるのかと尋ねますと「疎開先の長岡で空襲に会い、これを持ち出すときに非常に苦労した。縁に置いておけば、背中に担いですぐにいられる。それ以来ずっと置いてあるのだ」ということでした。

東京国立近代美術館に預けてあった本作を購入するにあたり、所有者の方の思い入れが強く、こちらの提示する額となかなか折り合いが付きませんでした。最後は松田権六さんのお宅で私と所有者の方と松田さんの三人で、膝を突き合わせ、一億円で手を打つことになりました。心配された県議会でも満場一致で了解を得、購入することが出来ました。明治以降の漆工芸で重要文化財の指定の第一号にきつとなってくれるのではと考えられています。

「きれい！かわいい！西出大三さんのきらめく世界」

開催日：2月23日(日)

二月二十三日のキッズ・プログラムは、「人間国宝 西出大三」展の鑑賞と截金実演見学や体験も含めた内容で行われ、まず、展示室での作品鑑賞で西出さんのきらめく世界を味わっていただき、西出さんや截金についてのクイズを行いました。西出大三氏は出来上がっている器体に截金を施すだけでなく、自らが木彫で制作したものに截金を施す作家だったため、時間を取って作品の形に注目してみました。次は截金体験に備えて、模様にも注目してスケッチする活動にも取り組みました。

そして、いよいよ今回のゲスト、截金作家の山本茜氏による截金実演の時間。極薄の金箔を扱う截金の作業は風を通さぬよう部屋を閉め切って心静かに施す技。そのため実演を見る機会などめったにありませんが、截金技法を多くの人に知ってもらいたい、また、子どもたちに本物の体験をさせてあげたいという山本さんの熱い思いで得た機会です。スカートの裾の揺れで空気が動くのも気を遣うという箔焼や面相筆での細かい截金技法の作業中は、小さい子どもたちも息を凝らして山本さんの作業にじっと目を向けていました。次は、豆折紙に山本さんが準備された本物の金箔を思い思いに切って貼っていく截金体験です。両手に面相筆を持つて慣れない作業ながら、子どもたちは黙々と金箔と格闘していました。出来上がった作品は、どれも創造的で花火、魚、蓮、灯台と様々。山本さんの真剣な作業から何かを掴み、かつ、自分たち自身も本物の体験ができた子どもたちの満足そうな表情で本講座を終了することができました。



平成二十六年年度

美術館バスツアー(予告)

今年度春の日帰りバスツアーは、五月二十五日(日)に行う予定です。新潟県上越市を訪れ、高田・春日山の寺院や美術館を見学します。

おもな見学先として、親鸞が開いた草庵に始まる浄興寺、小林古径の絵画と邸宅を有する小林古径記念美術館、上杉謙信が少年期に文武の修行を積んだ林泉寺、かつての名城を偲ばせる春日山城跡と謙信資料を展示する春日山神社記念館など、四ヶ所前後を予定しています。

詳しい日時や内容、募集要項については次号の美術館だよりにてご案内いたします。

四月の行事予定

<p>■「革新の視座展」講演会 午後1時30分～美術館ホール 聴講無料</p>
<p>20日(日) 「土のかたち―創造の現場から」講師 久世建二氏(陶芸家)</p>
<p>■ビデオ上映会 午後1時30分～美術館ホール 入場無料</p>
<p>27日(日) 日本の巨匠 公共の造形を 蓮田修吾郎 (13分) 加賀谷武―空間生態― (10分)</p>

お知らせ

平成二十六年四月一日より消費税増税に伴い、次の通りコレクション展示室の観覧料が次の通り改定されます。

一般 三五〇円→三六〇円、大学生 二八〇円→二九〇円



作品左上より

木下晋
「休息」2003年
平塚市美術館

久世健二
「落下」1991年

蓮田修吾郎
白銅浮彫「朝陽遙かに」2006年
金沢ふるさと偉人館

右上より

加賀谷武
「空間生態・ウィーン2」1999年
砺波市美術館

庄田雷寛
「棲まう鬼」1992年

次回の展覧会

会期:4月20日(日)
~5月18日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
春の優品選 -花鳥の美-	能面と能装束
第5・6展示室	1F企画展示室・ 2Fコレクション展示室(第3・4展示室)
優品選 第5展示室:工芸 第6展示室:絵画・彫刻	新紀元 革新の視座 加賀谷武、木下晋、久世建二、庄田雷寛、蓮田修吾郎の創造

ご利用案内
コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※4月1日(火)より ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室 無料の日(4月は7日)
今月の開館時間 午前9:30~午後6:00
カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休
4月の休館日 16日(水)~19日(土)

毎週水曜日は
Meiカード ポイントプラスデー

Meiカード 通常ポイント + 3% ポイントプラス

MEITETSU MIZA めいてつ・エムザ

金沢 むさし TEL(076)260-1111(代)
www.meitetsumza.com
10時~19時30分(地階レストラン街・書籍は21時まで)

※催事場、地階食品売場などご奉仕品は、通常通りのポイントとさせていただきます。詳しくは売場係員におたずねください。

石川県立美術館だより
第366号(毎月発行)
2014年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL: http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/